

かみさむらいづか

しもさむらいづか

上侍塚古墳・下侍塚古墳と周辺の 航空レーザ測量図

遺跡	那須最大級の前方後方墳 2 基
所在地	栃木県大田原市湯津上
時期	古墳時代前期（約 1,650 年前）
計測日	令和 3(2021)年 6 月 18 日
作成範囲	南北 2km・東西 1.2km
計測密度	1 m ² あたり 16 点以上
実施	栃木県教育委員会

航空機からレーザ光で地面の高さを測り、三次元測量を行いました。赤色立体図（左）では、高い所は明るく、低い所は暗く、急傾斜が赤く示されます。

どちらの古墳も、後方部の墳頂部がやや窪んでいることが分かります。もしかすると、水戸光圀が発掘調査をした痕跡かもしれません。上侍塚古墳は、周囲にわずかに低い場所がみられます。今は埋まっている堀の痕跡かもしれません。また、墳丘にも不自然に窪んだ部分があることが分かりました。

下侍塚古墳は、周囲の堀がくぼんでいる様子が分かります。また、前方部の墳丘の斜面は途中からやや角度が変わることが分かります。これは墳丘が二段に作られていることを示しているかもしれません。

今回、この測量図で読み取ったことも、トレンチ調査などで確認していく予定です。